２０２６年 10月 2日
第59号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本
発行人 椀田優一
編 集 情宣担当
ホームページ
http://www.jreu-yokohama1.jp/

横地申第２号 南武線と鶴見線乗務業務の一元化に関する解明申し入れ 団体交渉を行う！①

1. 業務の一元化を行う経緯を明らかにすること。

【会社回答】グループ経営ビジョン「勇翔2034」のもと、融合と連携をさらに加速させ、社員一人ひとりの活躍フィールドを拡大するとともに、将来を見据えた柔軟かつ効率的な業務執行体制を構築するため実施するものである。

組　合	会　社
「将来を見据えた柔軟かつ効率的な業務執行体制の構築」とはどのようなことを指すのか。	特定の線区に限定されず、複数の線区を乗務していく形である。人口減少と環境変化の中で、安全・安定輸送を確保していく。持続可能な運営体制を目指していく。
今施策では、短編成・中編成・長編成全てのワンマン線区を全て乗務する形となり、取り扱いも異なるので負担が大きい。	会社としても、一定の負担は生じると認識している。
鶴見乗務においては、PRC・駅との融合もある中でさらに負担が増えると感じる。	社員の更なる成長と、柔軟かつ効率的な業務執行体制を構築していく考えである。

2. 業務の一元化に伴うメリットを明らかにすること。

【会社回答】社員の活躍フィールドの拡大、融合と連携の深化により、柔軟かつ効率的な業務執行体制を構築するとともに、安全性向上・サービス品質の向上につながるものと考えている。

組　合	会　社
働く側のメリットを明らかにすること。	社員の活躍フィールドの拡大、成長のチャンスが増える。 新しい業務を覚えることを通じた技術継承の促進、職場内での連携強化、異常時対応能力の向上である。

3. 業務の一元化に伴うデメリットを明らかにすること。 注目!

【会社回答】必要な教育・訓練及び設備は整備し、安全・安定輸送の確保を前提に進めていく考えである。また、社員が安心して知識・技能を習得できるよう、習得状況を踏まえながら段階的に進めているところである。

組　合	会　社
デメリットを明らかにすること。	新たな知識や技能を得るために必要な教育・訓練は行っていく考えである。それぞれの区所で持っている知見が融合され、安全性とサービス品質が向上していく。
必要な教育・訓練とはどういうことか。	少しでも不安を軽減できるよう、コミュニケーションを図っていく。
なぜこれから業務の一元化しようと考えたのか。	組織再編を見据えて提案した。
なぜ鶴見乗務という職場を無くそうとするのか。	現時点では“確定”していない。
鶴見乗務はなくならないということか。	検討している段階であり、現時点では示せない。
回答している内容が職場での説明内容と異なる。変更したのか。 どうなってるの～！？	乗務の一元化として中原乗務が主体となると説明している。 様々な検討をしているが、中原乗務が主体となるということ以外は決まっていない。
修正提案をするということか。	決まった段階で示すこととなる。職場のあり方は様々だが、箇所の廃止は決まっていない。
社員一人ひとりの家族状況や住環境もある中で、具体的に決まっていないことについて、どう考えているのか。	社員一人ひとりの生活設計に大きく影響することは認識しており、ワーキンググループ内でも検討している。
来春の実施に向けて計画的に進んでいるのか。	中原乗務での線見や現車訓練、行路検討もしている。来春に向けて計画的に進んでいる。

冒頭からハッキリしない会社の姿勢が明確に！次号②に続く